

## 排水油脂利用の都市型バイオマス発電システム開発 自治体と連携して社会実装推進、海外展開も検討

事業ドメインは脱炭素。水と油の環境技術「フード・グリーン発電システム」。日本マクドナルドや日本ケンタッキー・フライド・チキン等を主要顧客として、都内中心に500店舗以上から排水油脂(グリストラップ浮上油脂)を回収、これを原料に埼玉県のTBMフード・グリーン発電所でバイオマス燃料を製造している。これまでに、50万kWh以上のバイオマス発電、30kL以上のカーボンオフ燃料の販売を実施。水の浄化・廃棄物削減・グリーンエネルギー創出を通じて、脱炭素とSDGsに貢献している。

所在地 埼玉県所沢市三ヶ島5-1586  
電話 042-941-6041  
URL <http://kankichikun.com/>  
代表者 代表取締役社長 佐原 邦宏

設立 1999年  
資本金 3,000万円  
従業員数 5人



### 国連・国立環境研究所などと連携しながら海外展開戦略を検討

フード・グリーン発電システムを全世界に実装していくため、①国立環境研究所による国際学会発表、②UNIDOでの情報公開、③UNFCCCでの情報公開(COP24タラノア対話)、④経産省要請によるコスタリカ政府要人の施設見学受入、⑤埼玉県要請によるタイ政府工業省の施設見学受入、等を実施。国立環境研究所の協力のもと実施した世界市場規模推計は2兆円で、現在この点を踏まえた海外展開戦略を策定中である。



フードグリーン発電システムの概要

### 横浜市、豊島区、埼玉県など自治体と連携し社会実装を推進中

自治体と連携し、地域資源を活用し脱炭素を実現する事業構築を推進中。①横浜市:「ゼロカーボンヨコハマ+SDGs宣言都市」脱炭素サーキュラーエコノミーモデルとしての実装、②豊島区:「池袋発のグリーン電力でEVバス回遊運行」地産地消型エコモビリティモデルとしての実装などを検討。③埼玉県:「ラグビーワールドカップ2019熊谷ラグビー場こけら落とし」、入間市「万燈まつり」、所沢市「次世代自動車シンポジウム」など、各種イベントにグリーン電力を直接供給する実績を積んでいる。



フードグリーン発電車

### 都市型バイオマス資源の総合化による地域ぐるみ脱炭素の実現

飲食店の厨房排水や食品工場の製造排水の浄化管理を通じて、分離回収した排水油脂を発電用やボイラー用のカーボンオフ燃料とし、CO2削減を実現する。排水油脂と一般市民の廃食油を合わせた賦存量は110万t/年(推計)。水を守り、新エネルギーを生み出すTBM環境技術により370万tCO2/年の削減が可能。地元の自治体、企業、市民が連携し、地域ぐるみで展開する脱炭素&SDGsに最適なソリューションとなる。事業運営のデジタル化にも着手しており、新たな社会的環境インフラとしての準備を進めている。



SDGsへの貢献